

みなかみ

議会 だより

第4号

平成18年8月1日発行
(2006年)

群馬県利根郡みなかみ町

かっぱ祭り

(右) スイカ割り
(左) 魚つかみ取り大会



定例議会 (平成18年6月14~23日)

…2

平成18年度補正予算 一般会計・特別会計 — 3

指定管理者制度 導入へ — 3

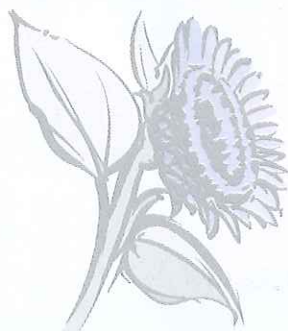
町政を問う 一般質問10人 — 4

疑惑解明調査特別委員会を設置 — 15

6月定例議会

こんな事が
決まりました。

14日から23日までの10日間の会期で開催されました。
報告3件、人事案件1件、条例案件が6件、補正予算が4件、
その他規約変更が1件提出されました。
また、指定管理者制度の導入を受け、町内44の施設が同制度の
指定対象となりました。
審議の結果、全ての議案を原案通り可決しました。
10人の議員が『観光振興』『滞納対策』『学校教育』『防災対策』
『福祉』その他町の課題等について一般質問をしました。



報告

- 平成十七年度一般会計繰越明許費繰越計算書
- (財)新治村農村公園公社の経営状況
- みなかみ町土地開発公社の経営状況

質問

- 人権擁護委員候補者の推せん
左記の人が推せんされました。
大川弘志氏(湯宿温泉)
(全会一致可決)

議案

- ①町国民保護協議会条例の制定
- ②町国民保護対策本部及び緊急対処事態対策本部条例の制定

討論

反対

- 原澤良輝議員
①過去の歴史を振り返ると、国民保護の名目で、町民を強制的に戦争に協力させるものと思われま
- ②町民の生命・財産を守るため、町の地域防災計画や豪雪対策の条例を優先させるべきです。

賛成

- 山田庄一議員
国際テロ等、予測がつかない事態が発生したときのルールを整え、住民に正確な情報伝達をしていくことは、二次災害を防ぎ、町民の生命・財産を守ることに繋がります。
(賛成多数可決)

- 町合併振興基金設置条例の制定
(全会一致可決)

- 町雲越家休憩施設条例の制定
(全会一致可決)

討論

反対

- 原澤良輝議員
三位一体改革の名で、住民税の増税が行われます。低所得者は税率を6%に引き上げ、七〇〇万円以上の所得者は6%に引き下げる弱い者いじめです。
(賛成多数可決)

- 町国民健康保険税条例の一部改正
(全会一致可決)

- 群馬県市町村会館管理組合の規約変更
(全会一致可決)

18年度補正予算 (6月補正)

項目	補正額	主な内容	総額
一般会計	9,500万円	地域間交流費/140万円 中山間地域総合整備事業費/▲980万3千円 元気な地域づくり交付金事業/4,646万円 まちうち再生総合支援費/100万円 スクールバス運営費/295万2千円 小学校耐震診断調査委託料/727万6千円 中学校耐震診断調査委託料/186万9千円 など	145億7,470万円
特別会計			
老人保健	912万9千円	償還金/912万9千円	26億0,032万6千円
介護保険	899万5千円	介護認定審査費/644万7千円 認定調査費/240万円	15億9,899万5千円
下水道事業	308万6千円	公共下水道建設事業費/250万円	10億3,286万5千円

— 討 論 —

◇一般会計

反対 穂刈清一議員

障害者自立支援法が十月から実施され、収入の少ない障害者の自己負担が増加し、障害者福祉が後退します。

賛成 河合幸雄議員

障害者自立支援法に対応させ、効果的・効率的にサービスを提供するためにも、必要な予算の計上です。

(賛成多数可決)

◇老人保健特別会計

◇介護保険特別会計

◇下水道事業特別会計

(全会一致可決)

指定管理者制度 当町にも導入へ

●指定管理者の指定

左記の公共施設が指定対象となりました。(すべて全会一致可決)

- デイサービスセンター・ほたるの苑
- 水上デイサービスセンター
- 新治ふれあいセンター
- 福祉センター
- 公衆浴場・いこいの湯
- 農産物直売所・百姓茶屋
- 交流促進センター・太助の郷
- 大峰休養施設・見晴荘
- 真沢ファーム交流施設
- 産地形成促進施設・月夜野は一べすと
- 農村交流公園・遊神館
- 農林漁業体験実習館・豊楽館
- 農産物加工施設・福寿茶屋
- 手づくり郷土の香りの家
- たくみの里ヨーグルト工房
- フルーツ公園・桃李館
- 特用林産物加工施設
- 月夜野農村環境改善センター
- 新治農村環境改善センター
- 集落水辺環境施設・恋越公園
- 水紀行館
- 湯テルメ・谷川
- 奈良俣サービスセンター
- 駐車場(湯原)
- ふれあい交流館
- 武尊青少年旅行村
- 相俣ダム周辺レクリエーション施設
 - 湯島オートキャンプ場
 - 赤谷川上流広場
 - 西川上流右岸広場
 - 西川上流左岸広場
 - 赤谷湖記念公園
- 猿ヶ京温泉交流公園・まんてん星の湯
- 駐車場(大穴)
- 駐車場(湯檜曾字湯吹山)
- たくみの家・木工の家
- たくみの家・竹細工の家
- たくみの家・わら細工の家
- たくみの家・陶芸の家
- たくみの家・和紙の家
- たくみの家・ものづくり館
- ふれあいやすらぎ温泉センター・上牧風和の湯
- 永井宿郷土館
- 猿ヶ京温泉屋内運動場
- 湯宿温泉屋内運動場

KEY WORD 【指定管理者制度】

平成15年に国会で法改正が行われ、公共施設の運営を効率良くするために、民間に運営を指定できるようになりました。

10人が質問を行いました。

主な内容

- 島崎 栄一 ①敬老バスカードへの町からの補助復活について …5
- 倉澤 長男 ①桜・花見百日構想について ……………6
②団塊の世代の誘致発信基地について
③自然湧水（大清水）の事業化について
- 林 一彦 ①上毛高原会館並びに利根沼田広域観光センターの
有効活用について ……………7
②みなかみ町の防災姉妹都市について
③学校等の補助金大幅削減後の運営状態調査について
- 鈴木 勲 ①景気対策と町の財政運営について ……………8
②観光振興対策について
③モリアオガエルの保護について
- 河合 生博 ①地域経済再生における観光産業の具体的な施策と
農林業に対する具体的な施策について ……………9
- 森下 直 ①後閑駅周辺の整備方針について ……………10
- 阿部 賢一 ①児童・生徒の安全確保について ……………11
②食育教育の取り組みについて
③若者の職場と定住促進について
- 穂苅 清一 ①豪雪および雪害対策について ……………12
②各種団体への補助金50%カットの問題について
③観光トイレの新設について
- 原澤 良輝 ①小学校の安全対策について ……………13
②借換について
③耕作放棄地について
④食育の推進について
- 小野 章一 ①行政区に対する町の対応について ……………14
②粗大ゴミの取り扱いについて
③町当局による地区別座談会について

一般質問

町政を問う



島崎 栄一 議員

敬老バスカードの復活 利根沼田の足並み揃えるべき

町長 財源確保できずやむなし

問 昨年度まで二千元で敬老バスカードが買えました。バス代の高い田舎で、車が無いお年寄りがあちこち出かけられ、大変喜ばれていました。この敬老バスカードへの補助金がカットされ、カードは二千九百円に値上げされました。年金と

いう限られた収入しかないお年寄りには、値上げはきつく、不満が出ています。

財政が厳しいのは承知していますが、何でも切っていくわけではありませぬ。一三〇億円の予算を組む町が、年間四〇〇万円ほどの敬老バスカードへの補助がどうしてもできないとは思えません。

敬老バスカードは路線バスを振興する役割もあります。路線バスは、観光客や高校生、お年寄りの移動手段としてなくてはならないものです。

沼田市二千元、昭和村



路線バスは車を使えない人たちの貴重な足

千七百円、川場村二千四百円、片品村二千元。他の市町村は以前と同じように販売し、地域の足として大切な関越バスを助け、敬老の精神でお年寄りを助けています。

利根沼田の足並みをそろえ、みなかみ町も敬老バスカードへの補助金を復活させてはいかがでしょうか。

答

町長 町では厳しい財政状況にあります。この事業は九百円の負担増をお願いして取り組むことにしました。

しれません。利根沼田の足並みをそろえ、二千元としてはいかがでしょうか。

答

町長 バスカードの事業はできれば続けたい考えでした。

しかし現実の財政状況は、職員の賃金のカット、補助金五十%カット、借金の繰り延べをしながら何とか予算を組みました。現在のところ、どうしてみても三〇〇万円のお金は出ないと思います。島崎議員に良い案があるなら出してください。

問

敬老バスカードは、月夜野が平成九年、新治・水上は平成十四年と遅れました。その間、敬老バスカードを買えない新治のお年寄りが、月夜野の友達に敬老バスカードを買ってもらって隠れて使っていました。今年からみなかみ二千九百円、沼田が二千元となると、沼田で買ってもらって使う人が出るかも

問

地方交付税という制度は、税収の少ない町も多い町も、平等の行政ができるようになっていきます。利根沼田でできることは、普通の町政をしていけば、普通のサービスとしてできるはず。町のお年寄りのため、地域を支える関越バスのためにも、敬老バスカードを復活してもらいたいと思います。



倉澤 長男 議員

桜の『百日開花構想』で誘客図つては

町長 全町に広がるようサポートしたい

問 当町は自然環境と景観に恵まれた観光産業の町です。

日本を代表する花は「桜」です。その桜を五十五種類混植、また標高

差により順次開花していく「百日開花構想」を現実させてください。自然の摂理と栽培技術で実現可能だと思います。町長には「平成の花咲か爺さん」

になってほしいと思います。

答 町長 私はこの取り組みを全町的に広めたいと考えています。この事業は行政主導でなく、町民自らが「自助互助」の精神で取り組み、町がこれをしっかりサポートしていくことで、事業も全町的に広がって「桜花咲くみなかみ町」になると思います。

問 諺に「人は歴史を残し歴史は人を残す」とある通り、町造り発展は人造りが原点かと思えます。

昭和二十年、終戦の第一次ベビーブームに誕生した全国七〇〇万人の団塊の世代が、退職期となります。この方々の誘致発信について、当町では

都市計画事業推進に対応されています。

交流居住から定住居住者の増加に際し、自然環境と景観美に恵まれたみなかみ町を、首都圏の奥居住地として発信していただきたいと思います。

村では、団塊の世代を見据えて「ぐんまの山村回帰支援研究会」を本年立ち上げました。

一方、富士通本社並びにJR東日本事業部等へ、団塊世代退職者に備え情報提供に協力いただいています。

答 町長 泉山村振興連盟加盟の二十五市町

上町対鉄道公団との契約になっていきます。地元谷川地区の皆さんと、十分慎重に協議を進めていきます。

■大清水トンネル湧水 事業として有効活用できないか

問 今年、国連では「砂漠化国際年」です。専門委員会の予測では、世界の飲料用水量は、二〇二五年には琵琶湖の五十倍も不足するといわれます。

旧水上町の谷川に放流

されているトンネル湧水は毎分一五リですが、これを旧月夜野町の飲用水並びに農業用水に、また事業化して多角的に利用できるでしょうか。また上毛高原駅を中心に、冬期間消雪用水以外は深沢

に放流、利根川に捨てています。これを飲料・農業用水に活用したいと思っています。

また深沢の放流水は、町の資源財産です。現在JRと協議を進めているところですので、ご協力ください。

答 町長 大清水トンネル湧水は谷川地区の強い要請に基づき、旧水

放流

放流

放流

放流



役場本庁舎から望む満開の桜



林 一彦 議員

上毛高原駅の周辺施設 観光振興に有効活用を

町長 再開発も含め検討したい

問 上毛高原駅に併設する上毛高原会館ならびに利根沼田広域観光センターを有効活用し、観光振興の拠点とすべきと考えます。

答 町長 広域圏やプリンスホテルと協議を重ね、場合によっては現状の施設は廃止して、みなかみの産業の中心施設として、新たな観光センターの建設も視野に入

れて、検討してみたいと考えております。財政的には、都市計画事業と合併特例債を有効に活用すれば、可能であると考えております。



良好な立地条件をいかに活用できるか（上毛高原会館・観光センター）

■防災姉妹都市協定

締結自治体に割引等の特典設けては

問 みなかみ町防災姉妹都市協定を結び、またその住民に、みなかみ町で通用する特別割引パスポートなどを発券したりすれば、町の活性化にもつながると考えます。

答 町長 みなかみ町では町民が安全安心に

暮らせる町づくりを目指して、地域防災計画を検討中ではありますが、現在交流している自治体、今後交流が期待される自治体等々と防災姉妹都市協定を結ぶことは、きわめて有意義な取り組みであり、ぜひ実現をしていきたいと考えています。

■学校等の補助金大幅削減

運営状況の調査・可能なら改善を

問 学校等の補助金大幅削減後の運営状態調査を行い、支障があった場合、それを改善できるのであれば行ってください。

答 教育長 学校でどうしてもというものは、子どもに風邪を引かせるわけにはいかないので、しなくてはなりません。これを原則として行っています。

答 町長 教育委員会を核として、十分な協議を重ね、必要とするところについては、予算を捻出して実施するよう努めていきたい考えです。



鈴木 勲 議員

町の天然記念物保護への考えは

町長 後世に残す責務がある

問 珍しい産卵習性で知られているモリアオガエルの保護対策についての考えを伺います。

答 町長 昭和三十六年に県の天然記念物に指定を受け、学術上大変貴重な天然記念物と承知

しています。

問 大峰古沼の国天然記念物指定への取り組みについて伺います。

答 町長 通常、国指定に係わる手続きは、国が調査を進めて、概ね

指定になると判断されたとき、正式申請書類等を

整備し手続きを進めると聞いています。町としては、県並びに国の動向を見守っていききたいと思えます。

なお、大峰沼・古沼は貴重な動植物の宝庫です。この美しい自然を後世に伝えていく責務があると考えています。

■財政健全化 税滞納にどう対応するか

問 合併による弊害をいかに早く取り除くかによって、財政運営の健全化が図られると思えます。景気対策はどうなのか伺います。

答 町長 観光を主産業とする「みなかみ町」としては、まず水上温泉や猿ヶ京温泉をはじめと

する地域の再生を図ることが重要課題であると考えています。

問 新町の公共料金の累積滞納額は膨大な金額となっており、財政運営に重大な支障を来しています。どう対応するのか伺います。

答 町長 上毛高原駅は「県北を包括する駅」として、昭和五十七年に開業され、実績では、平成三年の一〇〇人をピークに下降傾向を示し、平成十年から現在まで一日八五〇人を推移する乗

答 町長 滞納金額が総額一五億円という巨額になったことは、納税意欲の欠如というほかありません。六月一日より税務課内に「滞納整理室」を設けて、七人の専属スタッフで、滞納となつている問題を根本から調査し、滞納額の圧縮を図つていきます。

■観光振興策 特産物や交通網を通じどう取り組むか

問 農産物や特産品を絡めながら、町の観光振興にどのような対策をとるのか伺います。

答 町長 町においても「人材を整え、受け皿造りを積極的に」進め

るとともに、県の観光局と連携しながら、外国人観光客獲得に取り組んでいきたいと考えています。

問 上毛高原駅前の開発について、町の対応を伺います。

車人数となっています。新幹線通勤者の利便性を図るため、効率的な駐車場開発や、分散している駐車場の再編整備を行い、通勤圏拡大による創出策を講じていきたいと思えます。



学術的に貴重なモリアオガエルが当町にも生息している



河合 生博 議員

地域再生にあたり 観光と農林業への施策は

町長 山間地域の特色を生かして



農業と観光の融合を展開中（たくみの里）

問 経済再生における、観光産業と農林業に対する具体的取り組みについてお聞きます。

答 町長 五年間の農業基本構想や、地域マスタープランを策定していきたい考えです。具体的な支援策としては、須川新巻の農業用水パイプラインや須川奥平線の農道整備、月夜野のため池整備や穴切の農道整備、水上中央の基盤整備等です。

果樹や畜産そして施設園芸など、山間地域の特色を生かした農業振興を図るため、町では基盤整備や道路網のハード事業を実施しています。

答 地域振興課長 利根川を中心とした上下流交流を行って町づくりをし、下流圏や都市部と

の交流をうまくやって、この中で農業を活かします。

地域交流センターが行っている「まちの駅」は、現在全国で七六ヶ所あるので、この駅を通じた交流もできると考えています。

問 当町の観光産業について、国際化の対応等も含めた具体的な取り組みと計画をお聞きます。

答 町長 地域の一体性と、地域をよく知ることが大切であり、観光協会、商工会、農業団体等との連携を図りながら諸問題の解決に当たっていきたいと考えます。

特に農業との連携では、この町と交流を持つている多くの自治体にアンテナショップを張りながら、

農産物を販売したり、観光情報を流し誘客に努めることも大切です。

国際観光については、外国人旅行者、特にアジア各国への誘客を積極的に展開していくための体制整備を現在行っています。

問 税金の未納および滞納処理に関する具体的な取り組みと計画をお聞きます。

答 町長 行財政改革調査会からの答申を受け、六月一日に滞納整理室を設けました。大口滞納者については財産調査等も行い、地方税法、民法等の諸法規を順守して、滞納処分等の強制手続きを行い、回収を図っていきたいと思います。



森下 直 議員

後閑駅周辺のより利用しやすい整備を

町長 交通拠点にふさわしい内容としたい

問 利根沼田望郷ラインは、農業の流通改革のみならず、利根沼田の環状道路として広く住民や観光客に利用されていますが、月夜野インターチェンジへの到着路線の分かりにくさや、接続道路等の未完成部分があると思われま

す。そして、駅利用者や望郷ライン利用者の立場、さらには中心市街地の活性化や公共交通機関の利便促進等、駅周辺の交通を含めた環境整備が急務と考えています。

として整備されましたが、交通結節点となる後閑駅周辺は、今、そのあり方が問われていると思います。

問 望郷ライン出口・入口の整備ですが、師踏切を拡幅し、近郊の国・県道に接続してはどうでしょうか。

望郷ラインを視野に入れた後閑駅周辺の活性化を図るため、大地の恵みを活かした地域づくり調査事業で位置づけられた駅前広場整備と駅東西を結ぶ自由通路の、進捗状況や整備計画について伺います。

今後、後閑駅東口の公園整備、駐車場の整備、東西を結ぶ自由通路整備等、交通結節点としてのグレードアップを図りながら、中心市街地の活性化に取り組んでいきます。

答 町長 後閑地域開発は、河岸段丘と鉄道により分断されている状況を、どう解消するかと考えています。

答 町長 望郷ラインだけでなく、道路は起点と終点が大事です。すでに上毛高原駅に接続する考え方がありましたが、地域に必要とされる方向をしっかりと決めて、それを事業化するよう努力します。

今後は、駅前商業は、鉄道利用者の減少や地域的な未整備等により低迷

今後は、駅前商業は、鉄道利用者の減少や地域的な未整備等により低迷

今後は、駅前商業は、鉄道利用者の減少や地域的な未整備等により低迷

今後は、駅前商業は、鉄道利用者の減少や地域的な未整備等により低迷

答 町長 後閑駅東を終点とする利根沼田望郷ラインは、広域交通網

今後は、駅前商業は、鉄道利用者の減少や地域的な未整備等により低迷

今後は、駅前商業は、鉄道利用者の減少や地域的な未整備等により低迷

今後は、駅前商業は、鉄道利用者の減少や地域的な未整備等により低迷

東西自由通路をはじめ改善の余地は大きい（後閑駅東側）





阿部 賢一 議員

地域と連携して 児童・生徒の安全確保を

町長 避難所や見回りで体制構築



子ども達の安全確保はますます重要な課題に

問 現在の社会状況を考えると、子ども達の安全確保は学校・PTAでは限界があります。今後ボランティア等を募集し、学校・PTA・地域・関係諸団体と連携し、見

答 町長 通学路沿いの商店や事務所、民家等に「こどもの家」ステッ

カーの設置をしています。また、腕章やセーフティキャップ等を配り「安全パトロール協力者」をお願いし、登下校時の子供を見守る体制をとっています。

■食育教育 子どもと農業のために重要

問 子ども達が、豊かな人間性を育み生きる力を身に付けるためには

答 町長 児童・生徒の「生きる力」を育むために、学校給食を通して

食が基本であり、今、改めて食育が、知育・徳育・体育となる教育の基本となるものと位置づけられています。
また、町の基幹産業でもある農業の将来にとっても、重要な問題であると考えます。

「生きる力」を育むために、学校給食を通して、食育指導推進委員会等を設置して、給食センター・学校地域との連携を図りながら推進活動をしています。
また、管内三給食センターでは、極力地場産品の利用に今後も引き続き努めていきます。

■若者の定住促進

職場確保に向けた企業誘致の状況は

問 愛情込めて育てた子ども達が、職場が無いがために都市部へ流出しています。将来この町を支える存在にしなければいけません。

また、企業導入等の情報は、県を通して一社と民間の調査会社より一件が現在あります。

企業誘致等の取り組み状況について尋ねます。

工業誘致は、雇用の確保と地域経済の活性化につながるので、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

答 町長 月夜野地区に二社、新治地区に八社が導入されています。



議員 清一 穂苅

豪雪再来に備え態勢の充実を

町長 防災計画を制定、基本は『自助互助』

問 豪雪及び雪害対策のうち、屋根の雪下ろし、除雪排雪に、高齢者・生活弱者への財政的助成の考えはありませんか。

り難局を乗り越えました。一般家庭の雪下ろし等の経費負担は、各家庭の責任で対応するのが原則です。「自助互助の精神」で安全・安心の町づくりを考えています。

険地帯であるかの印象を与えましたが、今後のマスコミ対策は。

答 町長 豪雪報道は、観光産業への影響を考え、充分注意を払って欲しいとお願いをしました。

問 豪雪及び雪害総合対策条例（仮称）の制定が必要と考えますが、その考えはありませんか。

答 町長 地域防災計画を早期に制定する考えであり、その中で必要に依り、雪害に対応できる体制をつくってまいります。したがって、豪雪及び雪害総合対策条例の制定は考えていません。

■大穴駐車場トイレ 観光地にふさわしい改善望む

問 国道沿いの大穴町営駐車場の旧式トイレに苦情が多く出ています。観光地として清潔なトイレ新設が望まれますが、見解を聞かせて下さい。

老朽化しているので、観光地の施設であることを考慮し、バリアフリータイプを含め、機能的なトイレにしたいと思います。今後、有利な補助事業等が見つかれば、対応していきたいと考えています。

答 町長 昭和五十六年設置の現況トイレは

■補助金カット 観光宣伝は本来行政の役割では

問 水上観光協会への町の支出は補助金とは異なり、本来行政が行うべき観光宣伝委託事業ではなかったでしょうか。

困っています。再開できませんか。

答 町長 財源不足から予算編成にあたり、五〇%削減をしたところですが、確かに観光宣伝委託料の性格を持ち、行政が担うべき業務を実施しています。

ています。今後の取扱いは、補助金以上に繰越金のある団体は、その必要性がないと判断し、全額カットの方向で検討したいと思っています。

高齢者婦人センターは、経費のかかる入浴施設は当分の間休止させ、今後の活用を考えたいと思います。



今冬は近年まれに見る大豪雪となった

答 町長 平成十八年度豪雪は、関係機関や多くの人々のお力を得て、町民のライフラインを守

問 連日の大雪警報や雪崩の報道で、町が危



原澤 良輝 議員

放棄された耕作地 放牧地に転用しては

町長 畜産は公共牧場を使用

問 耕作放棄地は全国で増加しており、みなかみ町でも放棄地が目立ちます。

日本人は欧米人に比べ「BSE」に感染し易い遺伝子を倍以上持つっており、安全な国産品が求められるなか、耕作放棄地を放牧地に活用するなどの計画はどうかでしょうか。

答 **町長** みなかみ町の畜産農家は、公共牧場を使用する方針です。

県は今後の展望として、新治地区をモデル地区とするとの情報があるので、検討したいと思います。



町内にも耕作放棄地は多く点在する

食育教育 学校で体験学習を

問 毎年六月が「食育月間」です。子供への食育を通じて、大人自身も食生活の見直しが期待されます。自然に親しむ体験学習を取り入れることが大事だと思いますが、

答 **教育長** 食育は家庭生活の基本ですが、学校でもやらなければなりません。食育推進計画により、指導に努力し、保健福祉課と力をあわせて取り組みたいと思います。

町の借入金 低金利で借り換えは

問 みなかみ町の起債残高は一八六億円ですが、これらを現在の利率で借換をしてはどうでしょうか。また、政府資金などは、粘り強く交渉を行い、返済への道を開く努力をと思いますが。

答 **町長** 起債の借換は繰上償還が必要となりますが、政府資金など

は補償金を支払わなければならず、利子を二重に支払うこととなります。そのため、十八年度において措置した借換は、メリットの出る、銀行からの証書借入分、約十四億円を実施しました。政府資金の高金利分は、国に制度改正の要望をして行きたいと思えます。

教育環境づくり 学校の耐震化を急ぐべき

問 「新町まち作り計画」は、安心して楽しく学習できる教育環境作りを進めるとしています。その中で「教育改革の推進や安全で質の高い教育環境整備」など五項目をあげていますが、耐震基準を満たさない危険な学校や施設が沢山あります。限られた予算のなかで、緊急性の高い事業から実施する必要があると思

答 **町長** みなかみ町内の九小学校のうち、耐震基準を満たしているのは須川・猿ヶ京小学校で、未調査の三校は今年度行います。耐震対策関係で合併特例債の利用は、現在のところ不確定です。耐震等に特例債を活用する場合は、関係機関に働きかけたいと思います。

ますが。



小野 章一 議員

粗大ゴミの収集を町でできないか

町長 コスト増が利用者にはね返る懸念

問 今年四月より粗大ゴミの取り扱いが変更になり、多くの町民より「アメニティパークへの直接搬入の手段もないので、町が指定日をつけて

収集をお願いしたい」という声を聞きますが、考えを伺います。

答 町長 全町の粗大ゴミを町で収集運搬することにより、システムの変更や委託費用が高額となり、相当額の投資が必要になりますし、排出者の方に受益者負担として高額な料金をご負担願うことが予測されますので、現状の方式でお願いしたいと考えています。

問 町が粗大ゴミの指定日を決め、シール等の販売による粗大ゴミの取り扱いも考えられますが、いかがでしょうか。

答 町長 今後の粗大ゴミの対応については、提案をふまえたような方法がとれるか検討していきたいと思っています。

■今後の町づくり 地区別座談会開き意見聞いては

問 町民にとって、新町が交差している今、町当局による地区別座談会開催等により、町民の理解と今後の町づくりに関与の意見交換の機会も必要と思いますが、考えを伺います。

整するものもあります。まずは町村合併の総括をし、その結果を知らせる責任があると考えています。したがって今は、地区別座談会は考えていません。現在、町政の実態と財政の把握に努めており「みなかみ町総合計画」の策定と実現の方向づけを明らかにしたいと思っています。その後、地区座談会は、テーマを決めて開く必要があるという認識は持っています。

問 区運営費等見直し 配分内容と今後の見通しは

新年度より各区に対する区運営費、公民館補助金等の大幅な見直しが行われ、旧町村時に交付を受けていた区では、事業運営に多くの影響等が考えられますが、どのような予算の配分をされるのか伺います。

答 町長 月夜野・新治地区合わせて七八〇万円ほど交付していましたが、半額カットにより区運営・公民館活動が大変であることは伺っています。

問 行政区と町は一体組織です。常に連携し互いに協力関係を保つ必要があると思いますが、いかがでしょうか。

答 町長 各行政区の協力があつて町の発展が望めるわけであり、極めて大事なことです。町の財政問題等もあります。町長さん各位の意見にもできる限り添うよう努力し、区運営費等に対する今後の増額等を含め努力したいと考えています。



粗大ゴミは排出者自身が処分場まで搬入する形をとっている

答 町長 今日の行政サービス等は、合併協議会の最終の決定機関の中で調整した内容に沿って進められています。中には数年かけて調

区長会の席上、財政難による削減は概ねご理解をいただき、六月の区長会役員会でご協議をお願いします。配分については平

発議

疑惑解明調査特別委員会の設置

◇提案理由の説明

平成十七年六月の新治村(当時)議会・一般質問において、島崎議員が鈴木町長(当時は新治村長)について「十数年前に某社より便宜を図った謝礼として一億円もらった」として「旨の発言を行いました」旨の発言を行いました。

町長は名誉を傷つけられたとして、沼田警察署に告訴状の提出、裁判所へ慰謝料の請求の提訴を行いました。警察は、「議会内の発言で止まっている」と保留され、さらに弁護士からは、「議会内の発言は、国会法が波及され現行の司法制度では限界がある」ということで、裁判所の取り下げ勧告を受けて、法廷闘争を止めました。しかし、島崎議員の行

為を放置することは、議員の正当性を意味することとなり、町長は、自身の人権を守り、名誉を回復するために、島崎議員への抗議も含め、議長宛に「島崎議員の不当発言に対する対応」として書面を提出しました。

その中で「私が一億円の収賄事実があるなら、即刻告発して証明すべき事実が無いとするなら、文書にて謝罪すべきである。その真意が証明されるまでは、同議員の一般質問を受けない」と申し出ていました。

しかし、今回は新町の門出にあたる議会ということもあり答弁を受けることとしました。もし、町長に収賄事実が存在するのなら、そのような人物は町長であつ

てはなりません。

議会は、この事件の真実を明らかにして町民にお知らせし、議会運営が円滑にできるようにする責任を強く感じており、委員会を設置する必要がありますと認めるものです。

◇委員の選任

議長指名により、次の十名が選任されました。
委員長 本多秀律
副委員長 阿部源三
委員 河合生博

- 原澤良輝
- 久保秀雄
- 中村正
- 森下直
- 根津公安
- 速水一浩
- 倉澤長男

議会日程

6月定例会 (14～23日)

第1日目 14日(火) ◎本会議 9:00～14:07 (散会)	第2日目 15日(水) ◎一般質問 9:00～13:41 (散会)	第3日目 16日(金) ◎一般質問 9:00～13:32 (散会)	第4日目 17日(土) 休日	第5日目 18日(日) 休日	第6日目 19日(月) ◎総務文教常任委員会 ◎厚生常任委員会 ◎産業観光常任委員会 各9:00～	第7日目 20日(火) 休会	第8日目 21日(水) 休会	第9日目 22日(木) 休会	第10日目 23日(金) ◎本会議 9:00～11:53 (閉会)
---	--	--	----------------	----------------	---	----------------	----------------	----------------	--

訂正とおわび

議会だより第三号四ページ「議員の横顔」において、高橋市郎議員のコメントで「基準理念」とあるのは「基本理念とし」の誤りでした。訂正しておわびいたします。

議会を傍聴してみませんか?

◆9月の定例会は、6～15日を予定しております。

—お問い合わせは—
議会事務局まで

☎ 62-2111 (内線 611)

議会だより編集委員会

- ◆委員長 河合 幸雄
- ◆副委員長 森下 直
- ◆委員 林 一彦
- 島崎 栄一
- 原澤 良輝
- 本多 秀律



地域振興の担い手として…

湯原温泉街振興会

理事 阿部政司 (湯原)



水の盆まつり(二点とも)

「湯原温泉街振興会は、昭和四十六年に、旧水上町商工会の湯原支部を基盤とし、より実践的であり有効な組織活動の遂行を主目的として、湯原地区の商工会員有志により発足起動しました。会員は飲食・物産・サービス・旅館・製造・小売り・工業等、多岐にわたります。

以来三十有余年の間、温泉街と地域の活性化と観光振興を主基軸とした様々な活動を、積極的に展開してきました。主な活動は花いっぱい運動、提灯装飾、雪ほたるの点灯・紅葉飾り等の温泉街装飾事業、ますのつかみ取り・雪まつり等の町観光行事への支援協力、八木節愛好会による観光広報キャンペーンやキャラバンへの参加協力、四

十日間に及ぶ大夜市の開催から始まる夏の「水の盆まつり」《写真》や、冬の「冬祝い」等の、独自の観光イベントの企画開催、温泉街観光案内道標の設置等々、町・区・商工会との連携を深くもちながら、地域振興の担い手として活発な活動を継続してきました。

近年においては、平成十五年末に町当局に提出した、温泉街活性化に関する七項目の陳情書の提出を機に、全会員をあげた温泉街再興の熱い息吹が芽生え始めました。

当会が初動期より大綱の企画立案に深く関わってきた、国交省の「町づくり交付金事業」も無事に採択され、平成二十年までの五年計画にて、観光施設整備が着々と進められています。有効なソフト事業を伴わ

ぬハード整備の先行は片手落ちであるとの判断から、「新・湯原温泉街物語」と銘打った、散策観光客様のための歩く・体験・温泉・食べるの四部門からなる復活プロジェクトを起動し、昨夏より鋭意展開中です。加えて、将来の総合的な街並の統一景観づくりを目指す、国交省住宅局の「街並み環境整備事業」の推進のための中心的な立場を担い、早大研究室の指導協力を得ながら、数年間の長期的な構えで研究ワークショップを重ねています。

六月より、山田直彦新会長率いる新体制が誕生し、湯原地区再興のため、更なる努力をするべく活動を開始しています。湯原地区の再興なくして、観光立町・新生みなかみ町の発展はあり得ぬと思います。町民の皆様には、当会への深いご理解と尚一層のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

森下直

